



この冊子は、緑と地球環境保護のため古紙100%の再生紙と大豆インキを使用しています。



R100

編集・発行 財団法人札幌市公園緑化協会

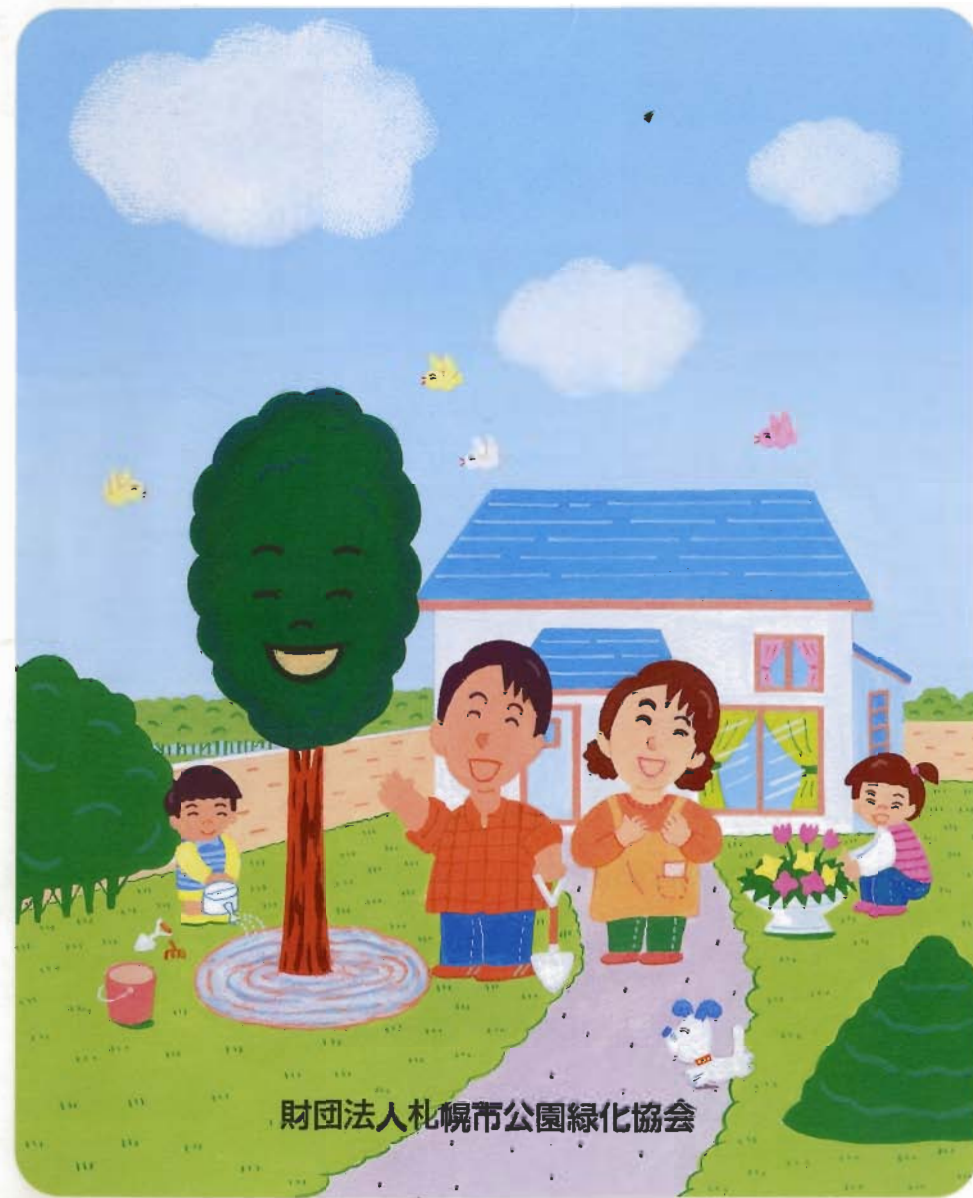
〒060-0051 札幌市中央区南1条東2丁目 南1条タカハタビル2階

電話 011-211-2579

<http://www.sweb.co.jp/ryokuka/>

すくすくみどり

No.13 木の植え方・育て方



財団法人札幌市公園緑化協会



この小冊子の内容をもっと詳しくお知りになりたい方、または他の植物の育て方などについてお知りになりたい方は、20ページの「緑の相談」をご利用ください。専門の相談員があなたのご質問にお答えします。

植物の栽培はいろいろな方法があります。この冊子の内容につきましても、ひとつの目安としてご利用ください。

目次

はじめに	P2
第12回緑と花のフォトコンテスト グランプリ作品	P3
第34回緑の絵コンクール 大賞作品	P4~5
私たちの暮らしと緑	P6~7
木を植える前に	P8~11
庭の土づくり 土の中での呼吸と団粒構造 土の組成と三相分布 土壌の酸度 (pH) と矯正 土壌の改良 植え場所の選定 苗木の剪定	
木の植え方	P12~15
植え込み 移植 水ぎめ法と土ぎめ法 支柱立て	
木の育て方	P16~19
水やり 肥料 剪定 病虫害 冬囲い	
緑の相談	P20
グリーンデータバンク	P21
札幌市都市緑化基金	P22~24

はじめに

植物は私たちの目を楽しませ、心身をリラックスさせてくれます。特に冬の長い北国では花や緑が貴重です。四季や室内・戸外を問わずに鮮やかな花と緑があるとただそれだけでホッとしたり、華やかで豪華な雰囲気を演出してくれたりします。

この冊子は、こうした花と緑の中でも、木の植え方と育て方にポイントをしばって解説しています。

もちろん書店でもこうしたテーマの本が多く出回っています。しかし、本州、特に関東地方を標準としたものでは、札幌と気候条件が大きく異なるため、解説されている栽培方法に無理があったり、時として全く逆のことが解説されていたりします。

四季だけをとても長く寒い冬、遅く短い春、梅雨のないさわやかな初夏、涼しく夜温の下がる夏、短い秋など、本州と札幌では気候が大きく異なります。

一見、寒い冬の問題などから、北国は園芸にとって不利であるかのように考えがちですが、本州方面では栽培が難しい夏の暑さやムレに弱い植物でも、札幌では元気に育ったり、花や葉の発色が鮮やかであったりします。

この冊子では、北国札幌で植物を扱ううえでの特徴や優位性、楽しさなどを紹介し、花と緑にふれあう環境づくりに役立てていただくことを願って作成しています。

なお、この冊子作成に当たりましては、皆様からいただいた募金（札幌市都市緑化基金）の果実（利子）の一部を使わせていただいております。

紙面で失礼ではございますが、ご協力をいただいた皆様への感謝とともに、さらなる札幌市都市緑化基金積立へのご協力をお願い申し上げます。



第12回（平成12年度）緑と花のフォトコンテスト

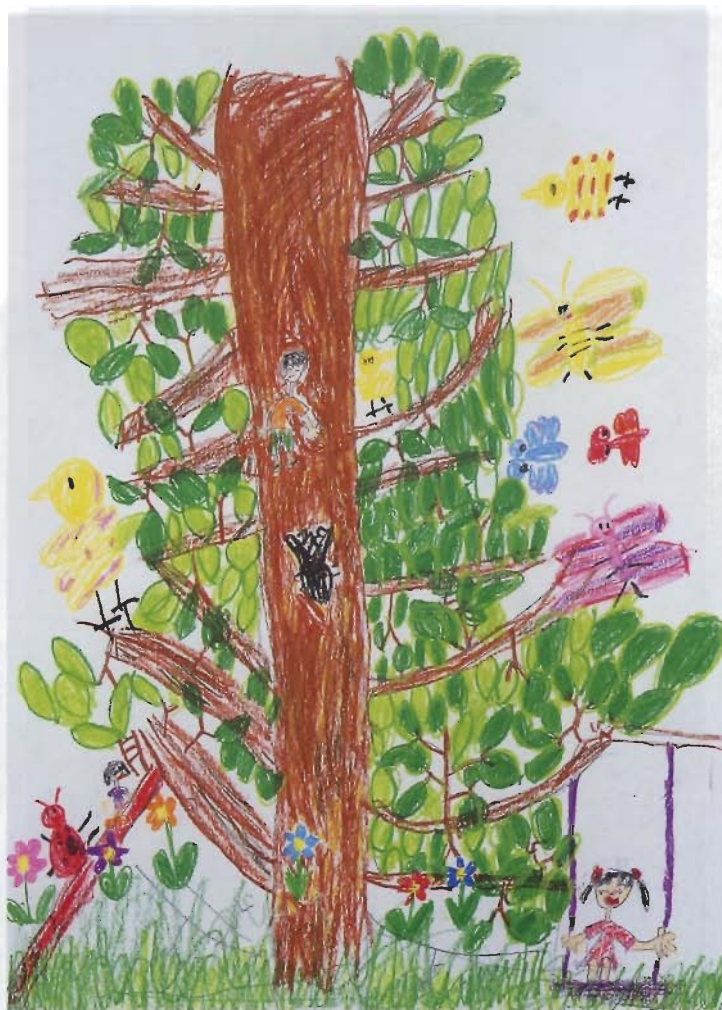
グランプリ作品

「夏親子」

板崎 進さん（札幌市白石区在住）

第12回緑と花のフォトコンテストには、四ツ切部門に65名172点、サービサイズ部門に44名115点、計109名287点の力作が寄せられました。

第13回緑と花のフォトコンテストも、札幌市内の公園や緑地での花や緑、自然とのふれあいなどをテーマとして皆様からのステキな作品、ほのぼのとした楽しい作品を募集しています。（メ切平成13年8月末日）



第34回（平成12年度）緑の絵コンクール

大賞作品

中齊 美沙希さん（札幌市立石山東小学校1年生）

緑の絵コンクールは、毎年、札幌市内の小中学生を対象として札幌市環境局緑化推進部と財団法人札幌市公園緑化協会の共催で実施しています。



第34回（平成12年度）緑の絵コンクール

大賞作品

中根 未乃里さん（札幌市立陵北中学校 2年生）

第34回緑の絵コンクールは小学校から24校1,478点、中学校から14校585点、計2,063点の応募が寄せられ、小学生の中から中齊美沙希さん、中学生の中から中根未乃里さんの作品を大賞作品として選考しました。

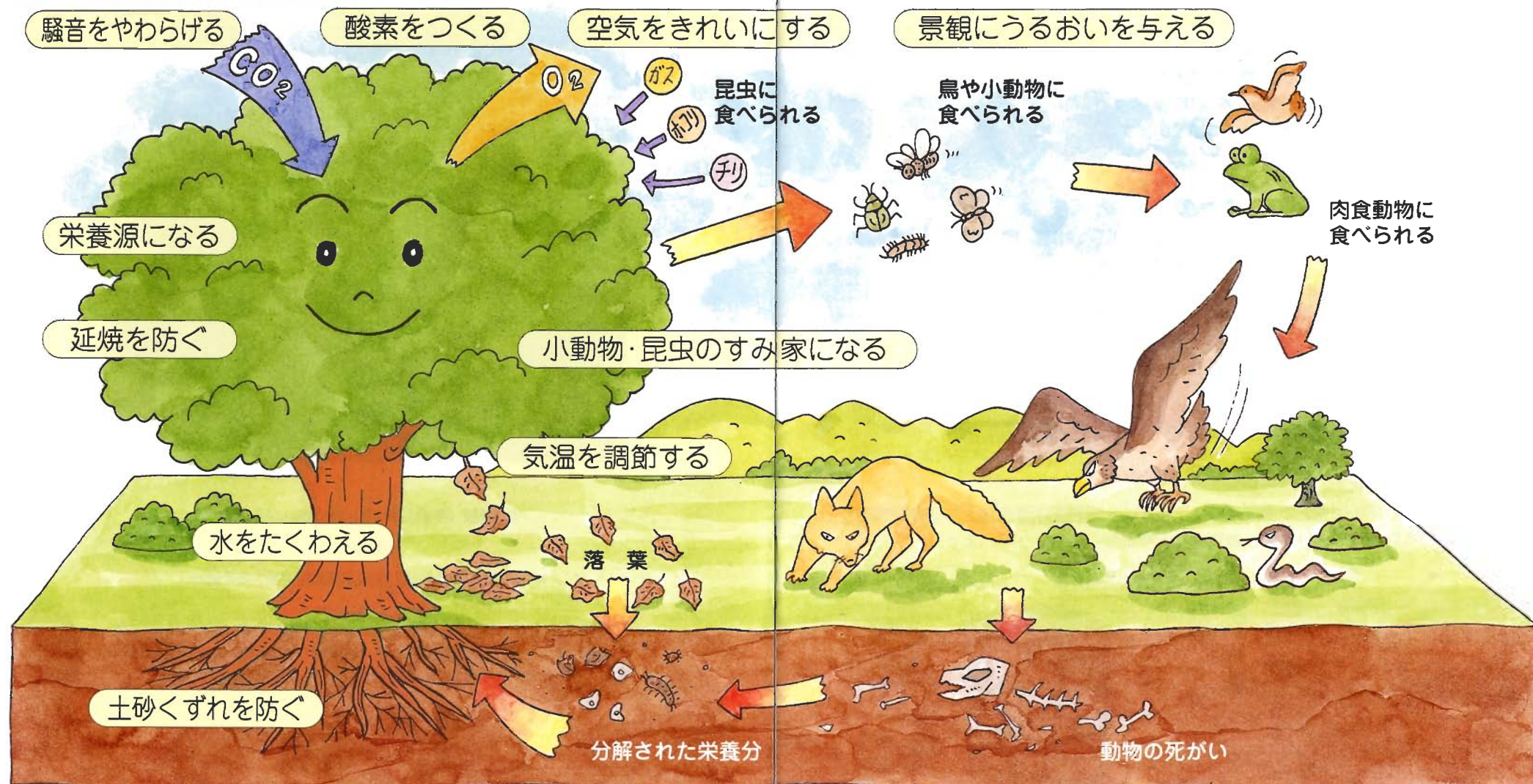
私たちの暮らしと緑

私たちの暮らしと緑

緑は私たちが生きていくうえで欠かすことのできない大切なものです。

緑は命の源である水を蓄えたり、空気をきれいにしたり、気温の上昇を和らげたりするなど、私たちの日常の暮らしを支えてくれる根本的な地球の宝物であるともいえます。また、緑は私たちの心を和ませ、街にうるおいを与えてくれるなど、ハード・ソフト両面からの恩恵ははかりしれません。

緑のはたらきと自然のしくみ



公園や街路樹、道ばたの雑草、庭に植えられた樹木や生け垣などの緑、さらにマンションなどのベランダや窓辺を飾る鉢植え植物も立派な緑です。

ひとつの家庭で育てられる緑に限りがあったとしても、緑を育てる家庭がたくさん集まれば、点から線、線から面へと自然に緑豊かで美しい街となるでしょう。

私たちのまわりの緑を増やして、自然が育む四季折々の新鮮な香りと息吹を感じられるような緑あふれる街、うるおいのある街をつくり育てていきたいものです。

木を植える前に

木を植える前に

庭の土づくり

土の中での呼吸と団粒構造

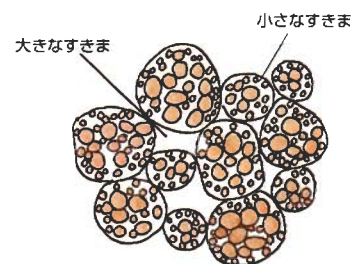
植物は太陽エネルギーと炭酸ガス、そして根から吸収した水分と養分で生長しています。また植物は根でも活発に呼吸して生長しています。

土の中は地上とは違い新鮮な空気の出入りが少なく、微生物も盛んに呼吸しています。ですから土の中の空気の通りが悪くなると、植物は呼吸困難になってしまいます。

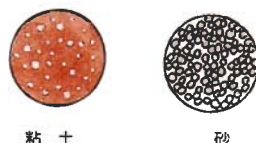
一般に、良い土とは根が深く伸びることができて、排水性、保水性、通気性が優れた団粒性のある土であることとされています。

団粒性のある土は、いろいろな土壌粒子が集まって大きな粒子をつくり、さらにいろいろな大きさの土壌粒子が集まり「土壌」を構成しています(団粒構造)。そして土壌粒子の隙間には酸素と水分、水分に溶けた肥料分がついています。

土壌粒子をつなげる働きをしているのが、腐葉土や堆肥などに多く含まれる腐植という物質で、微生物が有機物を分解する過程でできます。



団粒構造



単粒構造

土の組成と三相分布

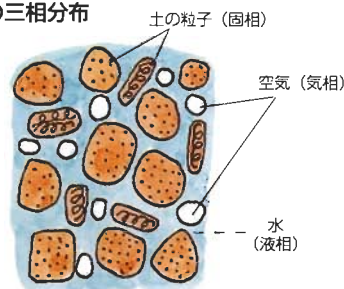
「土」は土壌粒子とその隙間とで構成されています。土壌粒子は砂や粘土などの無機物と動植物遺体の有機物から成り立ち、隙間は水と空気から成り立っています。

土壌粒子(有機物、無機物): 固相
40~50%が理想

土壌粒子の隙間
水: 液相
25~30%が理想

空気: 気相
25~30%が理想

土の三相分布



土壌の酸度(pH)と矯正

土壌の水素イオン濃度の量はpH(ペーハー)で表します。数値は酸性(1~6)<中性(7)<アルカリ性(8~14)で表し、簡単な器具や試験紙で測定できます。多くの植物は弱酸性が中性でよく生育しますが、ツツジやシャクナゲのように酸性でも耐える植物もあります。



北海道は強酸性の火山灰や泥炭性の土壌が多いのが特徴です。さらに、雨によってカルシウムやマグネシウムが地下に流れ出てしまうため、ますます酸度が強くなりますし、一般に酸性土壌では植物の生育はよくありません。

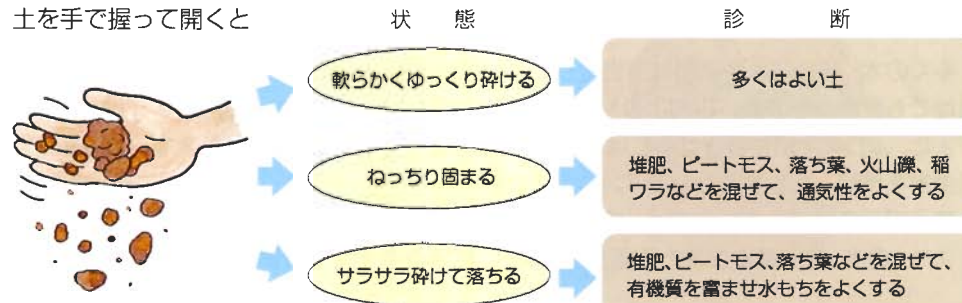
強い酸性土壌を改良するには、石灰などのアルカリ成分の補給が必要ですが、毎年庭に石灰を大量に散布してよいわけではありません。

石灰を土に散布すると、微生物の活性化を高め有機物の分解を促進するので、一時的に養分の供給が増えますが、有機物の補給が伴わないと地力は急激に衰えてしまいます。また石灰を大量散布すると、土中のマグネシウム、マンガン、鉄などを不溶性化して植物が根から吸収しずらくしてしまいます。

石灰の適度な施用量は2~3年に1度、1㎡当たり200~300g程度とし、堆肥などの有機物と一緒に施用するようにします。

土壌の改良 簡単な目安

土を手で握って開くと



木の植え方

植え込み

植え穴は、最小でも根の直径の2倍は掘り起こし、底に堆肥や腐葉土などの肥えた土を入れます。半熟堆肥は土中で腐敗し新しい根を傷めることがあるので、成熟堆肥を用いるようにします。

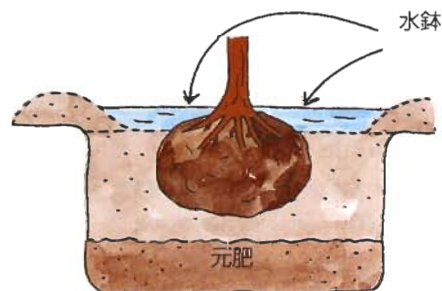
次に良く踏み込み、水をたっぷり入れて根と土の空間をなくすようにします。その上に細かい良い土を入れ、深植えにならないように注意します。

時間の経過によって植え穴が沈んでしまわないように地表より少し隆起気味に植えます。また根元周りに土を盛り、根付くまで雨水ややり水がたまるようにします。

接ぎ木した苗木は、接ぎ木部が地上7～10cmほどのところを出るようにして植え込み、根は四方に広げるようにします。

その後水をたっぷり流し込み、十分根の周りを固めて安定させます。

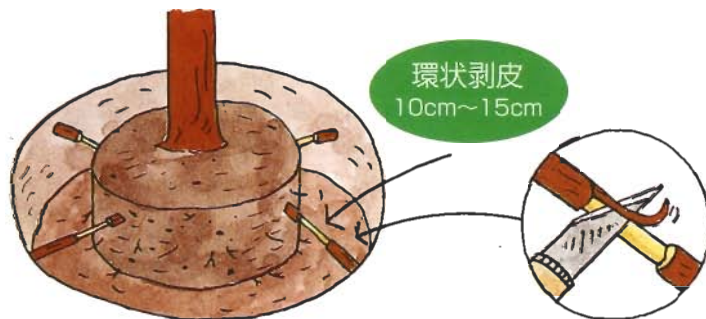
支柱は土の中にしっかり立て、木の高さ2/3ほどの位置で、支柱と苗木を結ぶなどして固定します。



移植

長い間移植したことのない木を移植する場合は、1～3年位前に根廻しをしておきます。根廻しは株下の直根や四方に広がる太い側根を残して環状剥皮します。剥皮の幅を10～15cmほどとって、穴に土を埋め戻します。

雪解け後から春先の芽吹き前までが、最も生命力が充実し回復力が早い（体力の消耗が少ない）ので、このころが移植の適期といえます。



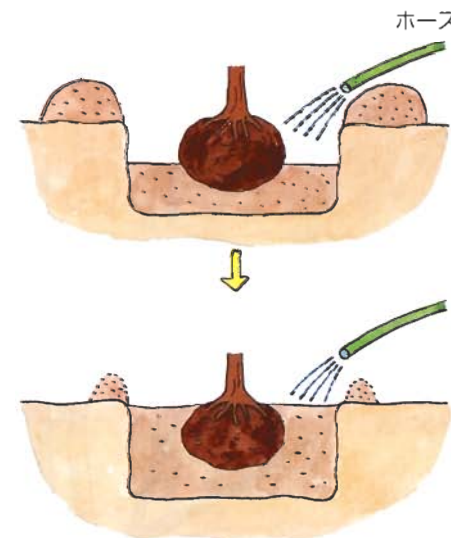
植え込み方は、水ぎめ法と土ぎめ法があります。

水ぎめ法

植え穴に木を据えて、土を半分ほど入れ水を十分注いで土と根がなじむようにします。

その後、水が完全に引いたら、さらに土を根元まで入れ、根元を軽く踏みつけて、たっぷりと水を注ぎます。

土を植え穴の周りに少し盛って水鉢をつくっておきます。

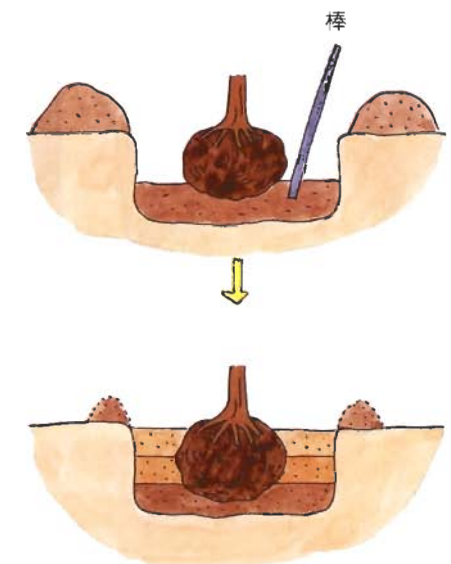


土ぎめ法

植え穴に木を据えて、土を1/3ほど入れます。棒で土を突っつきながら土と根がなじむようにします。

3回くらいに分けて土を入れて、根元を踏みつけてから、土を落ち着かせるためたっぷりと水を注ぎます。

乾燥を好むマツなどの針葉樹の植え込みによく用います。

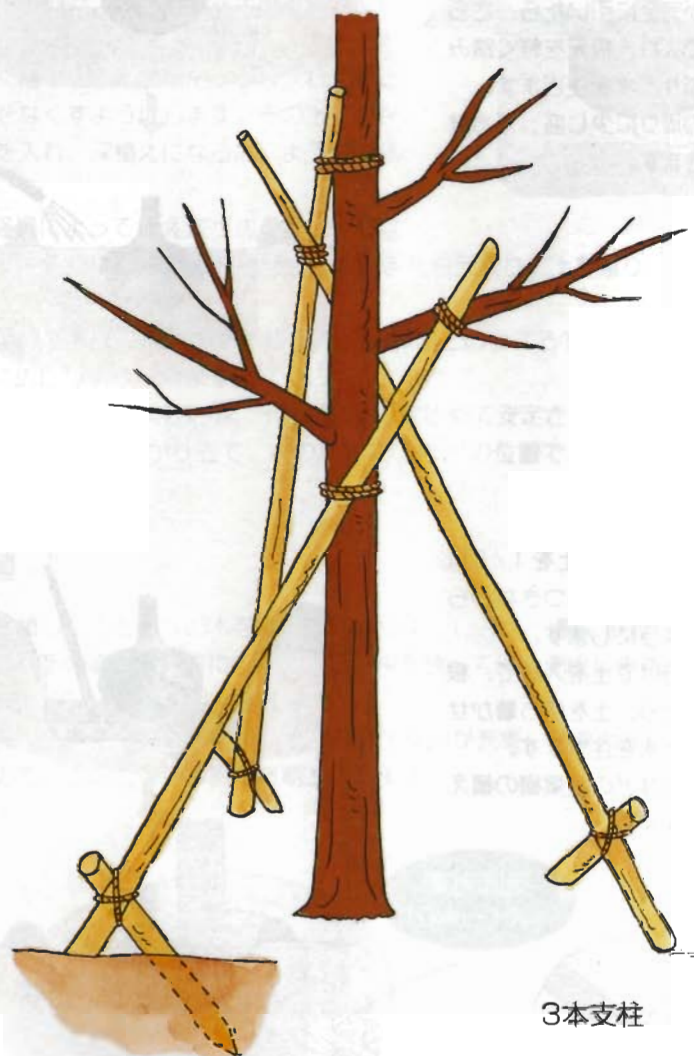


木の植え方

支柱立て

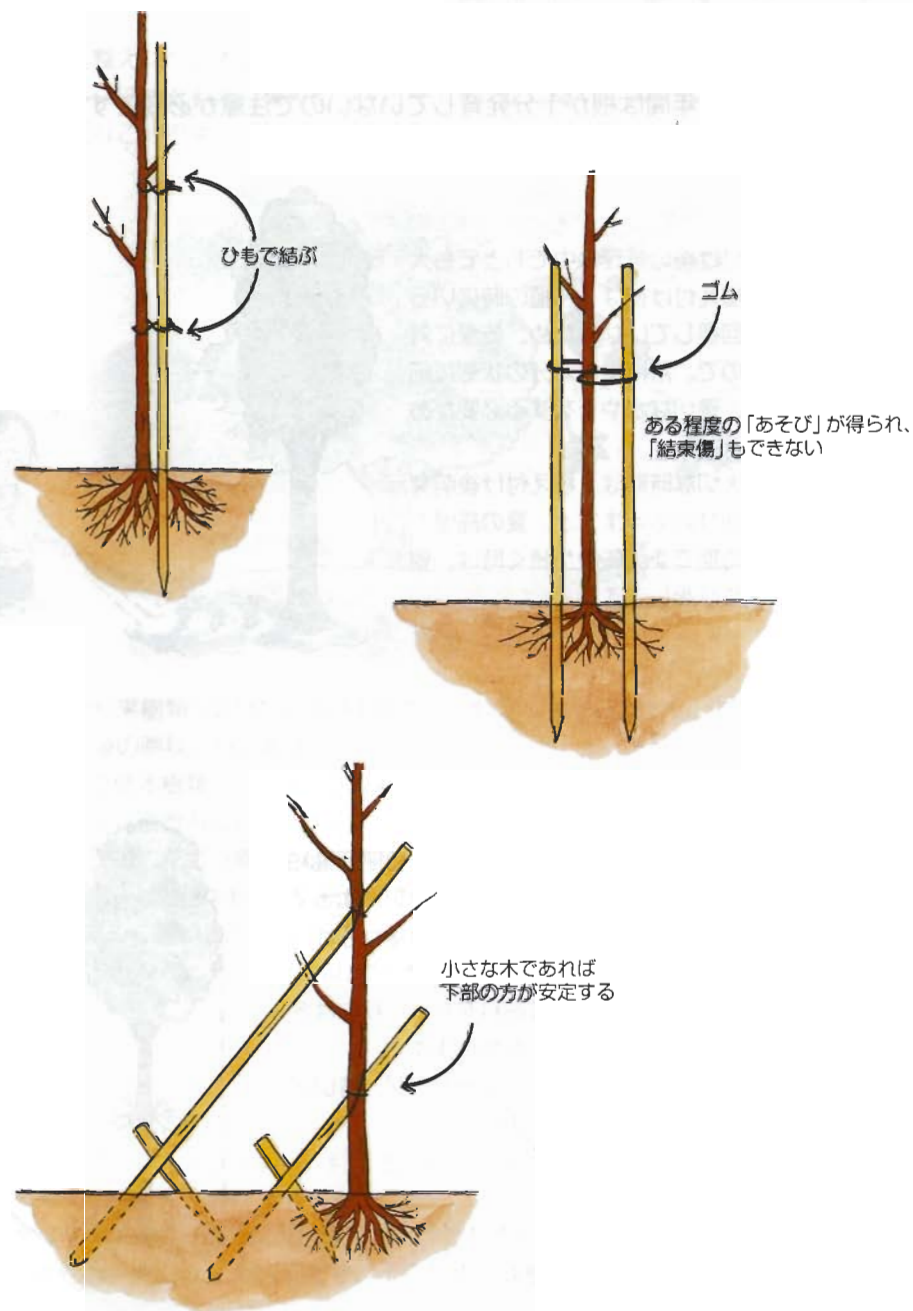
支柱立ては風などによる倒木を防いだり、植え付け後、根と土の活着をより早めるために行います。

木の大きさにあった方法で支柱を立てましょう。



3本支柱

木の植え方



木の育て方

木は植えてから1年間は根が十分発達していないので注意が必要です。

水やり

水やりは植え付け後の管理の中でもとても大切な作業です。植え付け後は、移植の時に切られた根が十分に回復していないため、乾燥に対してとても弱いので、常に土壌水分の状態に細心の注意を払い、適切な水やりをする必要があります。

水やりの最も大切な時期は、植え付け後萌芽して展葉し枝が伸び始めるまでと、夏の高温で土壌が乾燥する時期です。乾燥が続く時は、朝夕方に十分水やりをします。

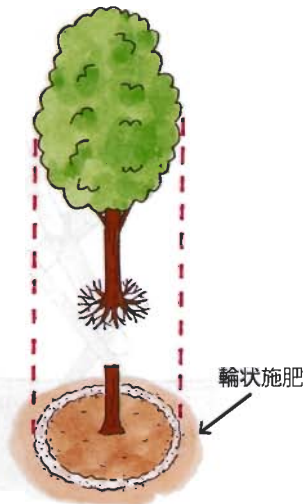


肥料

根の発育を待って、翌年の春から夏にかけて堆肥や油粕、骨粉などをやります。これらは土中のバクテリアによってチッソ・リン酸・カリに分解され、1～2ヶ月後からゆっくりと効き始めます。

追肥やお礼肥えには即効性の化成肥料をやり、秋には冬越しを助けるために油粕や鶏糞などをやります。

なお、やや酸性土壌を好むツツジ、シャクナゲ、青いアジサイなどには、石灰や鶏糞を施しません。



剪定

木の姿形を整えたり、木の内部の風通しを良くし、発育を良くするために行います。適度の剪定は木に活力を与え、果実をつけさせます。また種々の病虫害から植物を守る上でたいへん大切なことです。



落葉広葉樹や果樹類は2月から3月中旬ごろに剪定します。ただし、ブドウは水揚げが早いので落葉後の晩秋に行います。

春に開花する低木樹類、ライラック、マユミ、ムクゲ、ニシキギ、ボケ、アジサイ、ジンチョウゲなどは花後直ちに行います。

ツツジ類は花後に花ガラ摘みをして直ちに剪定します。

マツ類の緑摘みは6月中旬ごろ、新芽が手で折れるまでの間に行い、剪定は8月中旬から9月いっぱいまでに行います。

サクラやサクランボ、その他太めの枝を剪定した場合は、切り口に癒合剤を塗布して保護します。

病虫害

病虫害が発生したからといって、何でもかんでもすぐに薬剤に頼ってしまっても同じことの繰り返しになってしまいます。

病虫害は早く発見し、直ちに取り除くことはもちろん、また、なぜ発生したのかをよく観察し、原因を確かめることが大切です。そのためには植物に合った生育環境を考え、植物を健全に育てることが大切です。

冬囲い

寒さ、寒風、雪害から守る

冬の札幌の最低気温はその年や地域により差がありますが、 $-15^{\circ}\text{C} \sim -20^{\circ}\text{C}$ くらいで、大切な庭木が寒さで傷められることがあります。

また風が強いと普通の寒さよりも、乾燥した寒風によって幹や枝、花の蕾などを傷めることもあります。

ですから、寒さに弱いツゲ、コノテヒバなどの常緑樹、西洋シャクナゲ、本州(以南)産のツツジ類、バラ、ハナズオウ、カルミヤなどはコモかけをして寒さを防ぎましょう。

木は植えてから1年間は根が十分発育していないので気をつけましょう。丈夫で寒さに強いイチイでも植え替えて根が切られたりしていると、寒風には弱くなりますので注意が必要です。

特に春先に多く発生する雪による枝折れや枝裂けから木を守るため、支柱を立てたり、縄巻きをします。また屋根から落雪する場所や除雪車が通る道路わきの木は、板やコモで囲います。

冬囲いの時期

冬囲いは11月に入ってから行います。落葉樹は葉が全部落ちてから、特にコモかけは急がないようにします。樹木は気温の低下にあわせ、徐々に耐寒性を増していくので、ある程度の低温に十分あわせてからコモかけをします。特に常緑樹はコモかけ後、暖かい日が続くと蒸れてしまうおそれがあります。

初冬の天候は変わりやすいので、冬囲い作業は早めに行い、コモかけだけは急がず、11月下旬以降に行うとよいでしょう。

よく使われる縄の結び方—男結び



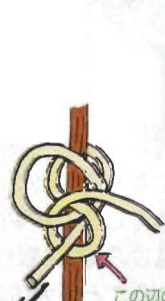
①下の縄で輪をつくる



②上の縄を輪をつくる



③輪を通す



④引いて締める

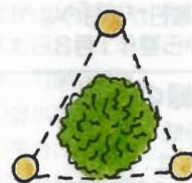


⑤縄を適度に切って出来上がり

冬囲いの方法



① 木の高さの真ん中より上で、縄を使い縛ります。



② 株の周りに根曲竹を3～5本等間隔にさします。



③ 竹を木の上10～20cmの位置で右回りか左回りに揃えて縄で縛ります。



④ 竹囲いの外側を所々一巻きして、下から縄で巻き上げます。



⑤ 樹種によって、あるいは雪害を受けやすい場所に植えている場合は、この上からコモやムシロを巻き、2～3段縄で縛ります。



緑の相談

豊平公園緑のセンター

豊平区豊平5条13丁目

■開館時間

午前8時45分から午後5時15分まで

■休館日

毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)
12月29日から翌年1月3日まで

緑の相談

●相談日・時間

休館日を除く毎日

午前10時から午後4時まで

(正午から午後1時まで休み)

☎(011)811-9370

みどりの図書

午前8時45分から午後5時15分まで

平岡樹芸センター

清田区平岡4条3丁目1-1

■開園時間

午前8時45分から午後5時15分まで

■休園日

毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)
11月4日から翌年4月28日まで

緑の相談

●相談日・時間

開園期間中の毎週水、木、土、日曜日

午前10時から午後4時まで

(正午から午後1時まで休み)

☎(011)883-2891

みどりの図書

午前8時45分から午後5時15分まで

百合が原緑のセンター

北区百合が原公園210番地

■開館時間

午前8時45分から午後5時15分まで

■休館日

毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)
12月29日から翌年1月3日まで

緑の相談

●相談日・時間

毎週水、木、土、日曜日

午前10時から午後4時まで

(正午から午後1時まで休み)

☎(011)772-3511

みどりの図書

午前8時45分から午後5時15分まで

<温室観覧料>

大人(高校生以上).....130円

中学生以下・65歳以上.....無 料

(敬老手帳などをご提示ください)

麻生緑の相談室

北区北39条西5丁目(麻生総合センター内)

緑の相談

●相談日・時間

12月29日から翌年1月3日を除く

毎週火、水、金、土曜日(これらの曜日が

祝日の場合は、木曜日が代替相談日)

午前10時から午後4時まで

(正午から午後1時まで休み)

☎(011)757-1003

みどりの図書

午前10時00分から午後4時00分まで

ご存じですか

札幌市グリーンデータバンク

グリーンデータバンクは、引っ越しや増改築などのため、ご家庭で育てることができなくなったり不要になった樹木などの植物を登録していただき、受け取りを希望する方にこの植物を紹介する制度です。

もしも、身近にこんな植物があったら……。ぜひ、この制度をご利用ください。

かけがえのない大切な緑と花を有効に活用し、緑の街づくりに役立てましょう。

植物を提供される方は…

・提供の対象となる植物の条件

①庭木または庭植えの草花類(球根、宿根草)で、鉢物や一年草は対象外です。

②植物の提供は無償です。

③庭木の場合、庭木として十分利用可能なもの。

④移植が容易にできるもの。

・所定の「提供申込書」に記入の上、豊平公園緑のセンターへお申し込みください(郵送可)。

・植物の名前は正確にご記入ください。名称が不明確な場合は写真やサンプルなどを添えて申し込み時によく説明してください。

・植物には移植適期などがありますので、斡旋期間に十分余裕を持たせてください。



受け取り希望の方は…

・提供植物のリストが豊平公園緑のセンター、百合が原緑のセンター、平岡樹芸センターに掲示してありますので所定の「受取希望申込書」に記入して、豊平公園緑のセンターへ直接お越しの上、お申し込みください。



・同一植物に対する希望が多い場合は、申し込み先着順となります。

・移植に伴う労力や費用などは受け取られる方の負担となります。

・植物の受け取り後は結果報告をお願いしております。

グリーンデータバンクに対するお問い合わせ・お申し込みは
豊平公園緑のセンター ☎811-6568

受付: 同センター開館日(左ページ参照)の午前9時から午後4時まで

札幌市都市緑化基金

緑あふれる街づくりのため 札幌市都市緑化基金の募金に ご協力をお願いします

都市の緑は、私たちの生活に四季折々の季節感や心のゆとり、やすらぎとうるおいといったかけがえのない充足感を与えてくれます。

札幌市は、道路、公園などの公共施設の緑化をはじめ、市民の方々の協力を得ながら地域の緑化に努めて、現在、全国でも屈指の緑豊かな街になりつつあります。

しかし、街全体が緑と花と木陰に包まれた「ゆとりとうるおいのある街」を実現するためには、公園などの公共施設の緑だけではなく、個人の住宅や事業所の周辺など民有地の緑化が不可欠です。

札幌市都市緑化基金は、市民の皆様からご寄附いただいたお金を積み立て、その果実(利子)で民有地の緑化を進めていこうとするものです。

私たちの街札幌を次代の市民に誇れるより緑豊かな魅力ある街にするため、「札幌市都市緑化基金」の積み立てに市民の皆様のご協力をお願い申し上げます。

都市緑化基金はこのような事業を実施しています



記念樹プレゼント

市民を対象に、結婚、出産、新築などの人生の節目を記念する慶事に対して、ライラック、ツツジ、ウメなど10種類ほどの中から希望の苗木をプレゼントしています。

応募は往復はがきで。返信用はがきが引換券となります。

「広報さっぽろ」などでお知らせします。

ツタ苗の補助

対象：市内の住宅、事業所等の壁面、法面など。
補助数：植え込み予定の50%(最大15本まで)
申し込み：春秋の年2回。「広報さっぽろ」でお知らせします。



ツタ緑化モデル施設

(ツタによる緑化推進の模範となるような市内の家庭、事業所を平成5年10月にモデル指定しました)



小西信義邸
中央区宮の森3条11丁目



穀物寮
豊平区中の島1条9丁目



中野診療所
東区北13条東16丁目



株式会社濱野建材店
中央区北3条東5丁目



ヴァンローゼ
中央区北3条西2丁目



札幌競馬場
中央区北20条西15丁目



六花亭製菓(株)真駒内店
南区真駒内上町3丁目

フラワーポットの貸し出し

対象：市内の町内会、自治会、商店街などの民間団体

個数：1団体あたり30個以上100個まで

規格：70cm×24cm×20cm

期間：3年間継続

申し込み：年1回春のみ

「広報さっぽろ」などでお知らせします。

その他：貸し出しの初年度のみ、培養土と花苗を1ポットあたり5株提供します。



その他の事業



コンテナツリーの設置



フラワースタンドの設置



緑化の講習会



緑化手引き書の発行



緑の絵コンクール



緑と花のフォトコンテスト



緑化パネルの展示



緑化イベントへの協力

都市緑化基金の募金にご協力を



この冊子も基金の果実の一部で作成しています。



基金に関するお問い合わせは

札幌市環境局緑化推進部緑の保全課

〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目 大通バスセンタービル6階

電話 011-211-2532

財団法人札幌市公園緑化協会

〒060-0051 札幌市中央区南1条東2丁目 南1条タカハタビル2階

電話 011-211-2579